



命の大切さを学ぶ授業①：心肺蘇生(私の勇気)で救われる命がある

「吉川高校生の成長物語」第9回。6月21日(火)、三木市消防署3名のご指導で生徒26名、教職員20名がAEDを用いた心肺蘇生法の講習を受けました。心停止後、救急車到着までがいかに重要かを理解した後、実習に移りました。「周囲の安全確認→倒れている人の反応確認→大声で助けを呼ぶ、119番通報・AED手配の依頼→呼吸の確認→胸骨圧迫→AED装着→電気ショック→胸骨圧迫再開」役割を変えながら、生徒・教職員ともに、蘇生法の流れをしっかりと習得、あるいは再確認しました。自分の目の前で、人が突然心停止で倒れたら…。**完璧な心肺蘇生ではなくても、私たちが勇気を持って一歩を踏み出すことで多くの命が救われることを学びました。**



命の大切さを学ぶ授業②：被害者も加害者も出さない社会に

「吉川高校生の成長物語」第10回。変化が激しく予測困難な社会の中で、未来を担う生徒たちが被害者にも加害者にもならないよう、**自分の命も、他人の命も大切にすること**を学んでもらうため、6月22日(水)、兵庫県警察、公益社団法人ひょうご被害者支援センター*から3名の方にお越しいただき、「命の授業」講演会を開催しました。

講師は犯罪被害者遺族の高松由美子さん。演題は「終着駅のないレールを走り…」。平成9(1997)年の夏、県立高校1年生の長男聡至(さとし)さんを少年10人の一方的な暴行で失った高松さん。苦しみと向き合い続けてきた25年間の体験からにじみ出る言葉は、生徒一人一人の心に響き、心に刻まれました。

講演最後のスライドは、生徒への次のメッセージでした。

普通の生活が、一番幸せです。

**生命は、「世の中でたった一つの命」大切に、
そして、バトンリレーをし、命を未来につないでください。
二度とこんな悲しい思いは、私たちだけで終わりたい。
友だちをいじめない、暴力をしない。
犯罪のない社会を、被害者・加害者をださない社会を、
皆さんで作ってください。**



*ひょうご被害者支援センター：犯罪や事故の被害者やその遺族に寄り添い、こころのケア等の支援をするとともに、社会全体が被害者等をサポートできる環境づくりに寄与する事を目的として、平成14年から活動。高松さんは監事、本間さんは直接支援員。

写真左下：聡至さんの等身大(180cm)パネルと新聞記事等
写真右下：高松由美子さん(右)、本間和子さん(左)



兵庫県立 **吉川高等学校**

Yokawa High School

〒673-1129 三木市吉川町渡瀬300-12

Tel 0794-73-0068 Fax 0794-73-0167

